

私も知りたい！

エネルギーの

いろは

疑問が晴れると、気持ちいい。知識が増えると、心地いい。
あなたが感じるエネルギーの「?」、わかりやすくお答えします。

今
回
の
ギ
モ
ン

原子力発電って、ほんとに必要？

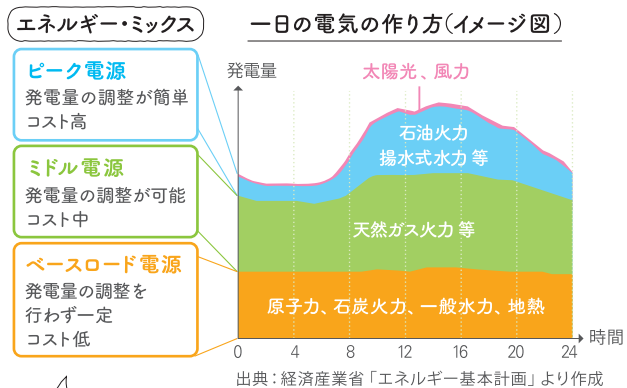
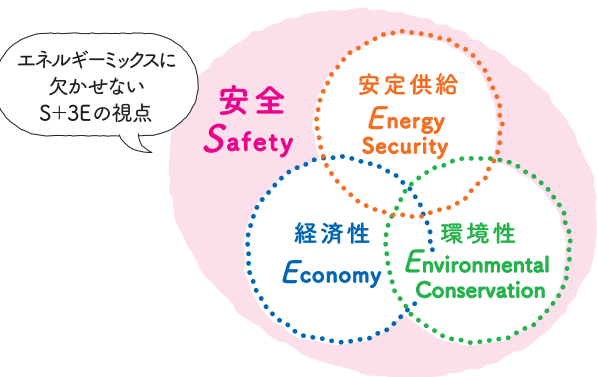
? 原子力発電所が停止していても電気は足りているんじゃないですか？
原子力発電って今後も必要ないと思うんだけど？

今は、原子力発電の代わりに古い火力発電所をフル稼働させるなどして、なんとか電気が不足しないようにしています。火力発電に頼りすぎると、化石燃料を大量に輸入することに

なり、燃料費の負担が増えて電気料金に影響が出てきてしまうことも…。それに、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO2)の排出量が年々増えているのも心配です。

また、電気を作る方法はいろいろありますが、選ぶときに大事なのは、安全であることを大前提に、みなさんに毎日いつでも電気が届き、できるだけ安い電気料金で、さらに環境にやさしいということ。これをS+3Eの考え方といいます。(右図参照)このS+3Eをすべて満たす発電方法は残念ながらありません。ひとつの方法に偏らず、それぞれの特徴を生かしバランスよく組み合わせること(エネルギーミックス)が大事なのです。S+3Eの実現には原子力発電も必要な発電方法なのです。

原子力発電は効率良くたくさん電気を作ることができ、発電するときに二酸化炭素(CO2)を出さない、といった特徴があります。もちろん安全を大前提に、原子力発電も含めたいろいろな発電方法をバランスよく利用することが資源の少ない日本ではとても大事なことなのです。



国が決定したエネルギー基本計画では、原子力は安全性の確保を大前提に「重要なベースロード電源」と位置づけられています。

? 増田明美さんにも聞いてみましょう。

エネルギーと駅伝って、よく似ているんです。

私 が電気エネルギーに興味を持ったのは第1回東京マラソンがきっかけです。3万人が東京の街を走り、7時間の交通規制が行われたその日は、普段よりも空気中の二酸化炭素の比率が低いというデータが出て、興味深く思いました。ランナーなので空気の味には敏感。これから環境について勉強しよう!そう思った時、神津カナさんのエネルギーについての講演を聴いたのです。発電方法について、それぞれの長所と短所を分かり易く説明されて、お蔭でエネルギーの扉を開くことが出来ました。

私は取材が大好き。今まで、北陸電力のいろいろな発電所を訪ねてきました。一昨年に、有峰(富山県常願寺川水系)の水力発電所へ。水力は必要な時にすぐに発電を開始でき、出力も調整し易いという機動性があるものの、雪が積もる時期はダム湖の水が不足するなど、降雪、降水量の影響を受けやすいことも知りました。その点、安定性で定評があるのが火力発電です。昨年、七尾大田火力発電所へ行くと、石炭を燃やしているのに煙突から煙が

スポーツジャーナリスト
増田明美さん
(ますだ・あけみ)
千葉県生まれ。高校在学中、長距離種目で次々に日本記録を樹立。84年のロス五輪女子マラソンに出場。大阪芸術大学教授。



出ていないのにびっくり。環境への心配りが感じられました。他に太陽光発電所、風力発電所なども見学に。自然エネルギーは環境に優しいものの、夜は無理、雨の日はダメ、無風の日もダメ、といった電気の需要に合わせる事が出来ないという不安定さが目立ちます。また、昨年11月には志賀原子力発電所も見学し、安全性向上施策についてうかがいました。

私たちが使う電気で重要なのは安定性だと思います。病院で人工呼吸器をつけている人や真冬の夜に電気で暖を取っている人など、電気が止まれば命にかかわる人もいます。発電方法に安全、安定、安価で環境に優しい全てを兼ね備えた万能の神・ゼウスはいません。それは駅伝と似ていて全員がスーパースターのチームはありません。短い距離が得意な人、上り坂が好きな人、向かい風に強い人など、個性が組み合わせられて良いチームが出来るのです。火力、水力、原子力、太陽光など、それぞれの長所を活かし、短所を補い合って最善の結果を目指す。エネルギーのベストミックスとは、そういうことなんですよ。

皆さまの声

読者の皆さまからいただいたご意見をご紹介します。

前号までの山本隆三先生による「エネルギーゼミ」を読んで>>>>>

時代の流れのこと、エネルギーのことをわかりやすく説明していただき、いろんな角度から考える必要があると思いました。(40代/女性)

電気料金の値上げは家計だけじゃない、自分の給料や雇用にも影響があるのは気づかなかった。ただ、事情は理解できても原子力は心配。悩ましいところです。(30代/女性)

エネルギーに対していろいろ考えなくてはと思いました。自分もそうですけど、一面しか見ていない人が多い。(50代/男性)